中学歴史プリント（過去問類似）
古墳時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 5世紀の大和政権は、朝鮮半島から得た鉄資源をどのように活用して国内の支配を広げたとされていますか。当時の状況を説明したものとして最も適切なものを選んでください。（2019年　群馬県公立入試　類似）

1. 鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。

2. 鉄製の鏡や装飾品を大量に作り、それらを各地の豪族に配ることで宗教的な権威を認めさせた。

3. 鉄製の貨幣を鋳造して全国に流通させ、租・庸・調の税制を確立することで経済的に支配した。

4. 鉄製の大型船を建造して中国の唐と直接貿易を行い、最新の法制度を取り入れることで中央集権化を進めた。

問2 「大陸の王朝の力を利用して国づくりをはじめた」とされる5世紀の倭の王について、当時の国際情勢と外交方針を述べた文として正しいものはどれですか。（2017年　長野県公立入試　類似）

1. 倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた

2. 聖徳太子が遣隋使を派遣し、中国の皇帝と対等な外交関係を築くことを目指した

3. 元（モンゴル帝国）の侵攻に備えるため、高麗と協力して大陸の情報を収集した

4. 足利義満が明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、勘合貿易を開始した

問3 5世紀ごろの古墳からは、鉄器の材料となる「鉄の延べ板」が数多く出土しており、朝鮮半島から移住してきた人々がもたらした技術の高さがうかがえます。これら渡来人が当時の日本（ヤマト王権）に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2021年　千葉県公立入試　類似）

1. 鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。

2. 遣隋使が派遣されたことで、中国の優れた官僚制度がそのまま導入され、即座に律令国家が完成した。

3. 平城京を中心に商業が発展し、全国で和同開珎などの貨幣が日常的に使われる経済構造へと変化した。

4. 仏教が初めて伝来したことにより、それまで行われていた古墳の築造が全国で一斉に禁止され、寺院建築に移行した。

問4 大阪府堺市に位置する、全長約486mにおよぶ日本最大の前方後円墳の名称として正しいものを、次の中から選びなさい。（2018年　熊本県公立入試　類似）

1. 大仙古墳

2. 吉野ヶ里遺跡

3. 三内丸山遺跡

4. 登呂遺跡

問5 5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれていたとされる遺物はどれですか。（2017年　愛知公立入試　類似）

1. 漢の皇帝から授けられたとされる金印

2. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀

3. 近畿地方で多く見つかっている銅鐸

4. 装飾が施された石包丁

問6 5世紀後半のものとされる埼玉県稲荷山古墳出土の鉄剣や、熊本県江田船山古墳出土の鉄刀には、「ワカタケル大王」という名が刻まれています。この事実から推測される当時のヤマト政権の様子について、最も適切な説明はどれですか。（2026年　和歌山公立入試　類似）

1. 大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。

2. 大王は奈良盆地周辺のみを治める、限定的な勢力に留まっていた。

3. 各地の豪族が大王の許可なく、独自に大陸と外交を行っていた。

4. 大王の地位は固定されておらず、各地の豪族が交代でその任に就いていた。

問7 大陸から漢字、儒教、仏教などが伝えられた時期の日本において、新たに生産が始まった須恵器の特徴とその背景について述べた説明として、正しいものはどれか。（2023年　高知公立入試　類似）

1. 朝鮮半島から来た渡来人が技術を伝え、山の斜面を利用した「登り窯」で高温で焼成された。

2. 国内の農民が独自に技術を開発し、「千歯こき」を用いて土を精製することで作られた。

3. 中国からの使者が技術を伝え、平らな地面に薪を積み上げる「野焼き」によって低温で焼成された。

4. 弥生時代からの伝統的な製法を守り、稲作の普及とともに東日本を中心に広まった。

問8 5世紀の朝鮮半島にある伽耶（加羅）地域から大和政権が得ていた資源で、武人の埴輪に見られるような鎧や武器の材料となり、政権の武力強化に大きく貢献した金属は何ですか。（2019年　群馬県公立入試　類似）

1. 鉄

2. 銅

3. 青銅

4. 金

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。**	5世紀の歴史年表や出土品からは、大和政権が朝鮮半島から得た鉄を利用して武力を強化し、その力を背景に関東や九州の豪族を従えていった過程が読み取れます。武人の埴輪が鎧をまとった姿で製作されていることも、武力による支配体制が整えられていたことを裏付けています。
問2	**答え 1** **倭の王は南朝へ朝貢し、朝鮮半島南部における立場を有利にするための承認を求めた**	5世紀の倭の王たちは、中国の南朝に使いを送り、皇帝から「安東大将軍」などの称号を授かりました。これは中国の国際秩序の中に組み込まれることで、朝鮮半島南部での自国の影響力を正当化し、他の諸国との交渉を有利に進める狙いがありました。他の選択肢は、飛鳥時代、鎌倉時代、室町時代の出来事です。
問3	**答え 1** **鉄製の工具や農具の普及により、土木技術が向上し、巨大な古墳の造営や大規模な農地の開墾が可能になった。**	渡来人が伝えた鉄器の製造技術は、それまでの木製や石製の道具に比べて耐久性と効率を飛躍的に高めました。これにより、大規模な治水工事や開墾が行われて農業生産力が増大し、その経済力を背景に大王（ヤマト王権）を中心とする支配体制の基盤が強化されることにつながりました。
問4	**答え 1** **大仙古墳**	5世紀頃に築造されたこの墳墓は、当時の近畿地方を中心とした勢力のリーダーである「大王（おおきみ）」の墓と考えられています。前方後円墳とは、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状を持つ古墳であり、百舌鳥古墳群の中でも最大の規模を誇ります。
問5	**答え 2** **王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀**	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかっていることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問6	**答え 1** **大王の支配力が、関東地方から九州北部まで広範囲に及んでいた。**	遠く離れた埼玉と熊本の両地域から同じ大王の名が記された遺物が出土したことは、5世紀後半までにヤマト政権の勢力（大王の権威）が関東から九州北部にまで拡大し、各地の豪族を服属させていたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問7	**答え 1** **朝鮮半島から来た渡来人が技術を伝え、山の斜面を利用した「登り窯」で高温で焼成された。**	須恵器の生産は、大陸からの高度な技術移転の象徴です。それまでの土器が赤褐色で比較的脆かったのに対し、熱効率の良い「登り窯」を使用することで酸素を制限した還元炎焼成が可能となり、硬質の青灰色の土器が誕生しました。同時期には文字（漢字）の使用や学問（儒教）も伝えられており、大陸との交流が当時の社会制度や技術を大きく発展させたことがわかります。選択肢にある「千歯こき」は江戸時代の農具であり、時代が異なります。
問8	**答え 1** **鉄**	大和政権は、朝鮮半島の南部に位置する伽耶（加羅）地域から鉄資源を安定的に確保し、それを用いて高度な武器や鎧を製造しました。当時の古墳から出土する武人の埴輪が鎧をまとっていることからも、この金属が軍事力の象徴であったことがわかります。これにより、政権は軍事的な優位を築きました。